

婦人科外来を訪れる下腹部痛患者への漢方治療の効果



神田 郁子 先生

東京通信病院 婦人科

1973年 東京女子医科大学大学院 卒業
 1976年 北里大学産婦人科入局
 1979年 大和市立病院産婦人科 医長
 1985年 東京通信病院産婦人科
 1989年 同上 医長
 1995年 同上 主任医長
 2005年 同上 退官
 2012年 現在は東京通信病院 更年期漢方外来(非常勤)、
 その他の医療機関でも女性漢方外来担当

はじめに

機能性月経痛だけでなく、今回、子宮内膜症、腺筋症、子宮筋腫などの器質性疾患で起こる慢性の下腹部痛に対する漢方治療の有用性と、あわせて下腹部痛の治療中に乳腺症の乳房痛にも漢方治療が奏効した2症例を紹介する。

症 例

【症例1】 48歳 女性

傷病名：腺筋症、子宮内膜症、子宮筋腫

現病歴：5～6年前より持続する下腹部痛と激しい月経困難症、月経前より起こる両鼠頸部から下肢へ放散する痛み、下腹部の張った感じ、腰痛に耐えられなくなるという状態が続いていた。他院でホルモン治療を行う予定であったが本人は希望せず、X年3月に漢方治療を希望し受診した。

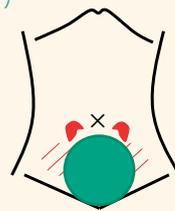
現 症：婦人科所見では、触診にて下腹部全体の圧痛(+)、内診所見では、子宮は手拳大、子宮と左右付属器の圧痛(++)があり、付属器には腫瘍は認められなかった。CA125は121U/mLであった。漢方医学的所見を図1に示す。

図1 症例1の漢方医学的所見(48歳 女性)

身長163cm 体重55kg
 体 格：良好でやや小太り気味
 脈 証：沈、細
 舌 証：うすい暗赤色、舌下静脈怒張 (+)
 腹 証：腹力中等度

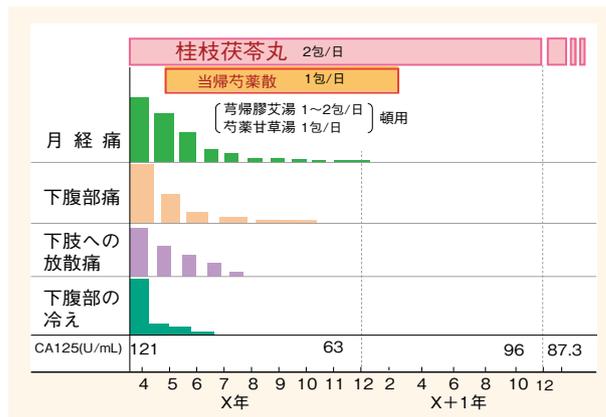
下腹部の冷え
 両側臍傍部の圧痛
 両側臍下へ馬蹄形を呈する瘀血

【処 方】 桂枝茯苓丸 2包/日
 継続投与



経 過：桂枝茯苓丸2包/日の継続投与とした。投与2週間後に下腹部の冷えが著明に改善し、温かい感じがあるとのことであった。下腹部痛と下肢への放散痛は約2ヵ月で半減した。月経痛の治療はかなり難渋したが、痛みが強い場合は芍薬甘草湯1～2包を頓用とした。さらに月経中に浮腫があることから当帰芍薬散1包/日を追加したところ、月経痛も8～10ヵ月で改善した。しかし、CA-125は現在も高値で推移しており、子宮内膜症の所見は残存していると考え(図2)。

図2 症例1の経過(48歳 女性)



【症例2】 42歳 女性

主訴：3カ月前より左下腹部～左側腹部痛出現

傷病名：下腹部痛、軽い生理痛

現病歴：受診の約2～3カ月前から、月経とは関係なく下腹部から左側腹部にかけての鈍痛が続いていた。内科や外科で検査を受けるも異常所見はみられず、婦人科への受診を勧められ、X年2月に受診した。なお、5～6年前から乳腺症、多発性乳腺嚢胞の腫大と嚢胞の増大を繰り返し、外科に通院中である。
現症：婦人科内診所見では子宮、卵巣ともに正常だが、子宮と左付属器にやや圧痛があった。経膈エコーでは子宮、卵巣ともに所見はない。血液検査所見では白血球、CRPともに陰性であった。漢方医学的所見を図3に示す。

経過：桂枝茯苓丸2包/日を7日間投与したところ、下腹部痛は消失し、月経痛もほぼ消失した。桂枝茯苓丸の服用によって体が温かくなるとのことで服用を継続したところ、3カ月後には乳房痛、乳腺

症の痛みがかなり軽減した。多発性乳腺嚢胞も縮小し、乳腺の痛みも消失した。さらに、年2回施行していた穿刺排液も不要となった(図4)。しかし、現在も内服継続中である。

まとめ

桂枝茯苓丸は、機能的月経痛に多く処方されるが、腺筋症や子宮内膜症などの器質的慢性の下腹部痛に対しても著効した。婦人科内診所見で下腹部痛、子宮の圧痛、付属器の圧痛がみられた場合の漢方腹診では、小腹の冷え・圧痛、臍傍部の圧痛や馬蹄形を呈する瘀血がみられる。その他、付属器には小腹急結や回盲部の抵抗圧痛がみられることが多い(図5)。炎症所見がみられない場合、桂枝茯苓丸は漢方医学的に瘀血による下腹部痛と診断できれば、機能的または器質的な内膜症などによる下腹部疼痛の緩和にも使用できると考えられる。

図3 症例2の漢方医学的所見(42歳 女性)

身長154cm 体重45kg
 体格：中等度
 脈証：沈、細
 舌証：紅色 白苔(+), 舌下静脈怒張(±)
 腹証：腹力 弱～中等度
 下腹部痛、小腹急結、
 臍傍部の圧痛
 下腹部の冷え、手足の冷え

【処方】 桂枝茯苓丸 2包/日 7日間
 (その後も本人希望され
 継続投与中)

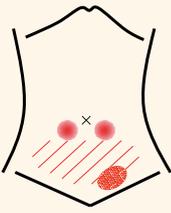
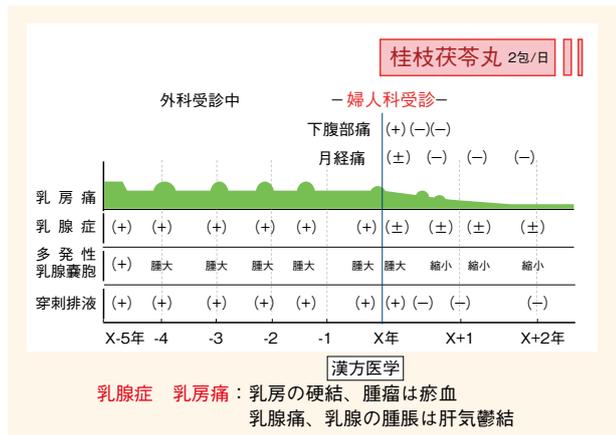


図5 下腹部痛の婦人科内診所見と漢方腹診

婦人科内診所見	漢方腹診
1. 下腹部痛 2. 子宮の圧痛 3. 付属器の圧痛	1. 小腹の冷え圧痛 2. 臍傍部の圧痛や馬蹄形を呈する瘀血 3. 小腹急結 4. 回盲部の抵抗圧痛

図4 症例2の経過(42歳 女性)



Comments

後山：桂枝茯苓丸が疼痛を緩和する機序について、峯先生はどのようにお考えですか。
峯：漢方医学では「通ぜざるもの痛む」という考え方や、気血水の中でも特に血の滞りが固定性の疼痛発現につながる可能性があります。症例1では、血を補う当归芍薬散と血を巡らす桂枝茯苓丸の併用が良かったのではないかと思います。
後山：桂枝茯苓丸は桃仁と牡丹皮が配合されていますが、このような組み合わせは痛みを伴うような瘀血には良いかと思いました。